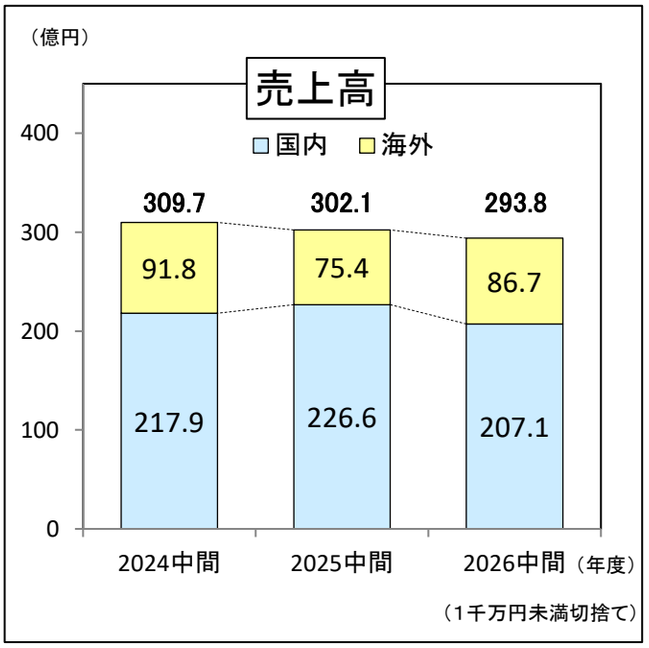
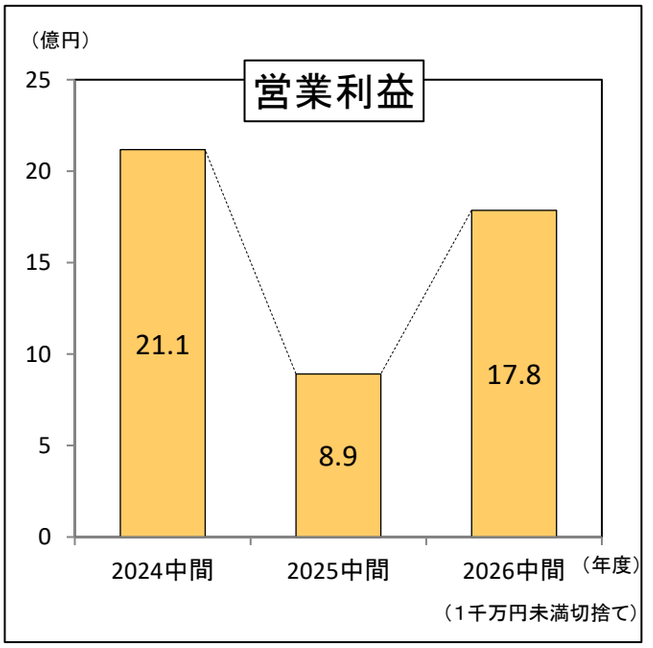
【補足説明資料】

2026年11月10日
アイホン株式会社(6718)

アイホン株式会社　2027年3月期中間決算(連結)のポイント

売上高　海外市場においては北米市場での売上が大幅に回復したものの、国内市場においては住宅市場を中心に売上が減少したため、連結の売上高は減少した。
利　益　売上高の減少があったものの、相対的に利益率の高い海外市場の売上構成比率が増加したことによるセールスミックスの改善、米国関税の還付、経費予算執行時期の下期ずれにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益はいずれも大幅に増加した。





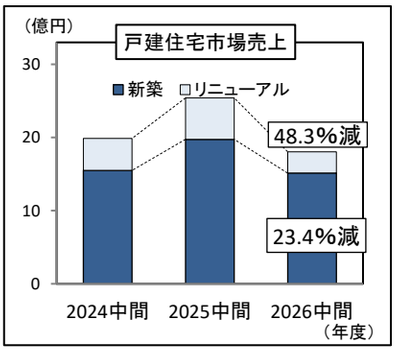
〔売　上〕

国内市場

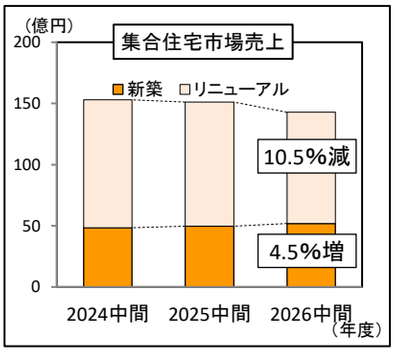
集合住宅市場での価格改定による駆け込み需要の反動減、戸建市場の売上が大幅に減少したこと等により、国内市場全体で前年同期比 8．6%の減少。

国内市場全体で19．5億円の減少(前年同期比　8．6%減)

◆住宅市場
防犯意識の高まりを背景とした売上増の一巡により、戸建住宅市場の売上は大幅に減少。集合住宅市場では、賃貸マンション向け製品が好調だったものの、リニューアル売上が一部商品の供給遅延により減少。また、前年の価格改定前の駆け込み需要の反動減もあり減少。
住宅市場全体として 15．8億円の減少。(前年同期比　9．0%減)



戸建住宅市場
▲防犯意識の高まりを背景とした一時的な需要の一巡。



集合住宅市場
○Pabbit提案により、賃貸マンション向け製品『PATMO α』を中心に新築売上が好調に推移。
○販売価格適正化。
▲前期の価格改定前の駆け込み需要による一時的売上増加の反動減。

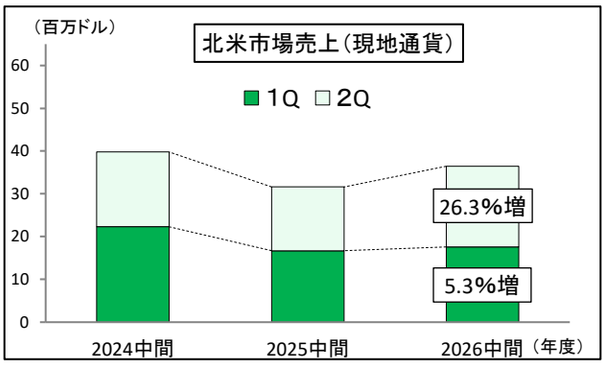
海外市場

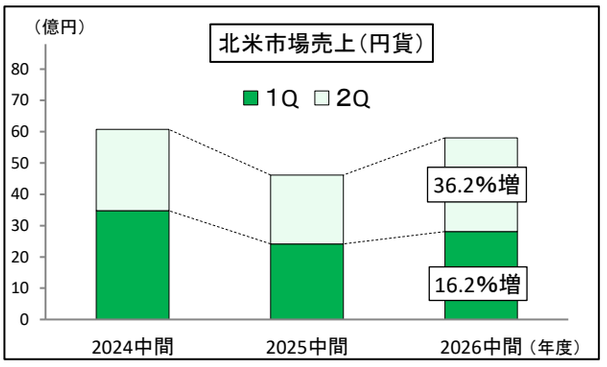
主力の北米市場において、販売代理店の在庫調整の影響が収束したこと、販売が回復したことに加え、価格改定の効果もあり売上が大幅に増加。円貨ベースでも海外市場全体の売上高は前年同期比では為替が円安となったことも重なり15．0%の大幅増加。

海外市場全体で11．2億円の増加（前年同期比　15．0%増）

◆北米市場　　現地通貨ベースで増加。（前年同期比　15．2%増）
円貨ベースでは11．8億円の増加。（前年同期比　25．7%増）

○販売代理店の在庫調整の影響が収束したことによる販売の回復。
○価格改定による売上の増加。





〔利　益〕

営業利益　8．9億円の増加（前年同期比　100．2%増）
○相対的に利益率の高い海外市場の売上構成比率増加によるセールスミックスの改善。
○価格改定による利益率の改善。
○米国関税の還付による利益の増加。

経常利益11．2億円の増加（前年同期比　117．2%増）

親会社株主に帰属する中間純利益7．5億円の増加（前年同期比　88．3%増）

〔通期見通し〕

期初計画を据え置き
・先行き不透明な原材料価格の推移。
・上期から下期への経費繰越し。

〔第9次中期経営計画〕

公表を延期していた第9次中期経営計画を本日公表
最終年度にあたる2028年度（2029年3月期）は創立80周年にあたる

第9次中期経営計画における定量目標

売上高	700億円
営業利益	50億円
営業利益率	7．1%
ROE	5．2%

〔配当方針〕
株主還元方針の強化
● 株主への利益還元をより一層強化

問い合わせ先
アイホン株式会社　経営企画部
０５２－２２８－８１８１